



西大路七福社ご利益めぐり

にしおおじ しちふくしゃ

三十五年の歴史を積み重ねて―



目次

「西大路七福社ご利益めぐり」とは? …… 4頁

神社案内

吉祥院天満宮 …… 6頁

若一神社 …… 8頁

西院春日神社 …… 10頁

大將軍八神社 …… 12頁

熊野神社衣笠分社 …… 14頁

平野神社 …… 16頁

わら天神宮 …… 18頁

地図 …… 20頁

昔の色紙のご紹介 …… 21頁



「西大路七福祉ご利益めぐり」とは？

目ふしめを守ってください
る神様のご利益がいただ

西大路（にしおおじ）は、京都市の西域を金閣寺の前から十条通まで南北に通っており、東大路と対になる大通りです。平安時代の西大路は、平安京の中心である朱雀大路に程近く、野寺小路（のでらこうじ）と呼ばれ道幅十二メートルにもなる都のメインストリートでした。

この西大路をはさんだ東西両側に、古くからの歴史と由緒・格式をもつ神社が七社あり、初春にこれら七社に参拝をして朱印を受ける行事が、「西大路七福祉ご利益めぐり」です。全行程約七キロの西大路をまっすぐに進む比較的わかりやすい順路であり、ゆっくり歩いてめぐっても一日で参拝できることや、学問、安産から開運出世、延命長寿までの人生の節

けます。
有名神社が集積する東大路界限にくらべ、余り知られていない西大路界限の歴史を多くの人に知ってもらおうと、昭和五十八（一九八三）年から始まり、今年で三十五回目を迎えることができました。

本冊子は、三十五周年を記念して作成した限定品です。

〔開催期間〕 元日より二月末日、九時から十七時まで

〔授印料〕 三百円

〔集印用色紙〕 四百円。各神社にてご用意しております。

〔参拝順序〕 自由

〔記念品〕 集印用色紙に七社全部のご朱印をお受けの方には、参拝記念の干支置物を授与します。七社目の神社にて記念品引換券に「氏名・祈願事」を記入してご提示ください。

今年の見本色紙





吉祥院天満宮



吉祥院天満宮は、ご祭神の菅原道真公がお亡くなりになって三十一年目に、道真公生誕の地に朱雀天皇の勅命により創建された最初の天満宮です。

この地は、桓武天皇による平安京遷都の際、道真公の曾祖父古人（ふるひと）卿、祖父清公（きよきみ）卿がお共して帝より領地として賜ったところです。清公卿が遣唐使として唐へ向かう途中、嵐に遭遇しながらも吉祥天女の靈験により難を逃れ、無事使節の任を果たされました。帰朝後、吉祥天女の像を刻んで自邸内に祀られました。これが地名吉祥院の由来です。

承和十二年（八四五）に是善（これよし）卿の子として誕生された道真公は、幼少の頃から秀才に秀で、文章生に合格されるまではこ

の吉祥院の地に住まわれました。延喜三年（九〇三）の道真公没後、この地で吉祥院聖廟をおきその霊を祀ったことが当宮の始まりです。

当宮はその後幾度となく焼失しましたが、その都度浄財を集めて再建を行いました。平成二十年（二〇〇八）には創建千二百年祭を斎行しました。

境内には、道真公のへその緒を埋めたと伝わる「胞衣（えな）塚」をはじめ、少年時代に習字に使用したという「硯の水」や参勤のときに姿を映されたと伝わる「鏡の井」などがあります。

【所在地】 京都市南区吉祥院政所町3

【電話番号】 〇七五―六九一―五三〇三

【ご利益】 ちえと能力開発



平清盛公西八条殿鎮守社



若一神社

にゃくいちじんじや



若一神社のあるこの地は、平清盛公が六波羅（ろくはら）在住の頃、水源が豊かで風光明媚な場所でした。気に入った清盛公はこの地に別邸を建て、西八条殿（にしはちじょうでん）と称しました。

仁安元年（一一六六）に紀州熊野に詣でた清盛公に、「昔、威光上人が人々の救済のために勧請した熊野権現のご分霊若一王子（にゃくいちおうじ）のご神体が西八条の土中に埋まっているので、掘り出して祀れ。」とのお告げがありました。帰京の後、邸内を探した清盛公は、お告げの通り若一王子神社のご神体を発見しました。

社殿を造って西八条殿の鎮守とし開運出世を祈った公は、早くも翌年、太政大臣に任ぜられました。昇進を感謝して清盛公自らが植

えたのが、現在も西大路通沿いにそびえる大楠です。その後も、清盛公の勢威は益々伸びたことから、現在も開運出世のご利益のある神様として尊崇を集めています。

境内にある末社の寿命社は、天正年間（一五七三〜一五九二）に播磨の高砂神社から勧請し、能「高砂」で知られる高砂尉と姥をご祭神として、夫婦円満・子孫繁栄・延命長寿にご利益があります。他にも、市杵島姫命をご祭神とし芸能・音楽・福運にご利益がある弁財天社、松尾大神を勧請した松尾社、稻荷大神を勧請した稻荷社、当神社の神職及び総代等を祀る祖霊社があります。

【所在地】 京都市下京区七条御所ノ内本町98

【電話番号】 〇七五―三二―三二―八九二八

【ご利益】 開運、出世



淳和院離宮守護社

さいいんかすがじんじや

西院春日神社



当社は、天長十年（八三三）に淳和天皇が退位に伴い淳和院離宮（別名西院）へお移りになったとき、勅諭により奈良の春日四座大神を勧請し、守護神とされたのに始まります。

この淳和天皇の皇女、崇子内親王が天然痘（疱瘡）を患われたとき、神前の靈石に祈願されたところ、たちどころにその靈石に疱瘡が生じ、内親王は快癒しました。これ以後、当社は皇室から病氣平癒・災難厄除の守護神として崇められ、承和五年（八三八）、安永三年（一七七四）、寛政十二年（一八〇〇）、天保元年（一八三〇）、弘化三年（一八四六）、慶応二年（一八六六）と、たびたびご祈禱を命ぜられてきました。

そして神前の靈石は「疱瘡石」（ほうそういし）と呼ばれて信仰を集め、世の人々は病の

平癒を願って競うようにこの石を拝するようになりました。また都に疫病が流行る前には必ずその表面がぬれたそうです。

境内にある還来神社（もどろきじんじや）は社名のとおり、還って来るといふ信仰により、旅行安全の神と崇められています。太平洋戦争中には、出征兵士の無事帰還を願う家族が多数訪れました。古くから祈願・御礼にわらじ奉納の慣わしがあります。

【所在地】 京都市右京区西院春日町61

【電話番号】 〇七五―三一二―〇四七四

【ご利益】 病氣平癒、厄除、旅行安全

大内裏天門守護の方位神

だいしょうぐんはちじんしゃ



大將軍八神社



当社は延暦十三年（七九四）の平安京遷都の際、桓武天皇の勅願によって、奈良春日山麓より大將軍神（だいしょうぐんしん）を大内裏の北西角（陰陽道の天門）の地に勧請し、国家守護を祈念したのが始まりです。

大將軍神とは、陰陽道・道教の信仰による方位を司る星神であり、この神の方位を犯すと厳しい咎めを受けるといっているので、古来非常に恐れられてきました。

社号は初め、陰陽道のお堂として大將軍堂と称され、応仁の乱の荒廃後に神社として復興。江戸時代中期に大將軍神を始め、曆の神八将神と素盞鳴尊（すさのおのみこと）とその御子八神が習合。さらに、聖武・桓武両天皇を共にお祀りし、大將軍八神宮と改称し、明治以降に現名称となりました。

平安朝以来、王城鎮護の神として篤い崇敬を受け、現在も建築・移動・婚姻・旅行・交通など毎日の生活において、あらゆる災厄から人々を守護する方除・厄除の神として信仰されています。



〔所在地〕 京都市上京区二条通御前通西入3丁目西町48

〔電話番号〕 〇七五―四六一―〇六九四

〔ご利益〕 方除、厄除

住宅街に佇むモダンなお社

くまのじんじやきぬがさぶんしゃ



熊野神社衣笠分社



熊野神社は、弘仁二年（八一二）に修験道の日圓上人がこの地に紀州熊野大神を勧請したのが始まりで、当時は白川熊野社または熊野権現社と言われておりました。

寛治四年（一〇九〇）、白河上皇の勅願により聖護院が創建されると、その鎮守社となりました。応永三年（一三九六）には足利義満公により広大な社地を寄進されましたが、応仁の乱の戦乱により荒廃し、僅かに小祠を残すのみとなりました。

江戸時代の寛文六年（一六六六）、聖護院宮道寛法親王により再建され、天保六年（一八三五）には下鴨神社旧本殿が移築されて大修造が行われました。現在の本殿はその際のもので、代表的な流れ造り檜皮葺の社殿で、礎石はすべて白川石材を重積したものであり、

屋根檜皮は光格上皇の寄進によるものです。明治維新以後は神仏分離により熊野神社と改称されました。

当熊野神社衣笠分社の鎮座地には、朝廷に仕えた典薬医の屋敷がありました。彼は孝明・明治・大正の三天皇の診療に携わり、晩年は京都に戻り漢方医院を開業しました。熊野神社を崇敬すること殊の外篤く、没後にその屋敷地の寄進を受け社殿を設けて、この地でも熊野大神をお祀りしています。



【所在地】 京都市北区小松原北町 136

【電話番号】 〇七五―四六一―七八三六

【ご利益】 縁結び、安産、病氣平癒

京都を代表する桜の名所

ひらのじんじや



平野神社

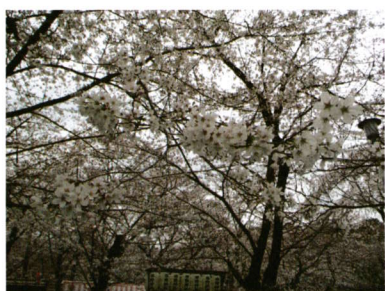


「続日本記」(しよくにほんぎ)によると、奈良時代末期の延暦元年(七八二)、平城京の田村後宮に祀られていました。桓武天皇による平安京遷都に伴って大内裏近くに移し祀られたのが平野神社の創建になると考えられています。「延喜式」(えんぎしき)によれば、全国で唯一の皇太子御親祭が定められた神社です。中世には荒廃しましたが、江戸時代寛永年間に平氏嫡流の公卿、西洞院時慶により再建されました。

再建された本殿は、第一殿と第二殿、第三殿と第四殿がそれぞれ空殿を挟んで連結する形式を採っており、「平野造」と称される当社独特の形式で国指定重要文化財です。中門前に建てられている拜殿は、慶安三年(一六五〇年)に東福門院によって寄進されたものとい

い、京都府指定文化財です。

当社は古くから桜の名所として知られ、境内には約五十種四百本の桜があります。平安期には貴族たちが様々な桜を楽しみ、江戸期には庶民にも夜桜が許され、「平野の夜桜」は京都を代表する花見の名所となりました。平野神社原木の桜も多く、約一ヶ月半という長い期間、各種の桜を愛でることができます。



〔所在地〕 京都市北区平野宮本町1

〔電話番号〕 〇七五―四六一―四四五〇

〔ご利益〕 開運、良縁、心願成就

珍しいわらわのお守りで有名



わら天神宮

わら天神宮



天長八年（八三一）、衣笠山の麓に氷室が設けられることとなり、その夫役が加賀国の人々に割り当てられました。彼らは移住に際し、地元で崇敬していた菅生石部神社（すごういそべじんじゃ）の分霊を勧請し、ご祭神を菅生石部神の御母・木花開耶姫命（このはなのさくやひめのみこと）と定めてお祀りしたのが当宮の始まりです。

応永四年（二三九七）、足利義満公による北山第（現在の金閣寺）の造営にあたり参拝に不便になったことから現在地へ遷座し、社号を菅生石部神の通称である敷地神社（しきちじんじゃ）としました。

その後、応仁の乱を始めしばしば兵火にかけり一時は大変に荒廃しましたが、弘化四年（二八四七）の大補修、昭和十年（一九三五）

の改修を経て現在に至ります。

当宮では、古来より稲わらで編んだ籠にお供え物を入れて神様に捧げており、やがて抜け落ちたわらを、安産を願う妊婦さんが持ち帰るようになりました。後にそのわらを切り取り、安産のお守りとして授与するようになったのです。そのわらのお守りの珍しさから「わら天神宮」という通称のほうがよく知られています。

〔所在地〕 京都市北区衣笠天神森町10

〔電話番号〕 〇七五―四六一―七六七六

〔ご利益〕 安産、子授け、縁結び





平成5年酉
平 癸



昭和63年辰
昭 戊



平成6年戌
平 甲



平成2年午
平 庚



平成7年亥
平 乙



平成3年未
平 辛



平成8年子
平 丙



平成4年申
平 壬

※見本色紙のない年もあります。

昔の色紙のご紹介

地図





平成 26 年
甲 午



平成 22 年
庚 寅



平成 17 年
乙 酉



平成 13 年
辛 巳



平成 9 年
丁 丑



平成 27 年
乙 未



平成 23 年
辛 卯



平成 18 年
丙 戌



平成 14 年
壬 午



平成 10 年
戊 寅



平成 28 年
丙 申



平成 24 年
壬 辰



平成 20 年
戊 子



平成 15 年
癸 未



平成 11 年
己 卯



平成 25 年
癸 巳



平成 21 年
己 丑



平成 16 年
甲 申



平成 12 年
庚 辰